

# 関西蔵前工業会 午餐会 講演

## ～能面と秀吉～



雪の小面

月の小面

花の小面

平成27年11月10日

樋口玄正

会場：中央電気倶楽部 317 会議室

第 686 回 蔵前-関西午餐会講演 「能面と秀吉」 講師： 日本能面美術協会 会長 樋口正玄 氏  
 演題： 「能面と秀吉」 会場： 中央電気倶楽部 317 会議室

Part 1 : 能面の基本・秀吉の貢献

- ・ 秀吉は『能』が好きで、面を愛好していた。
- ・ 能面は、大きく分類して 60 種 ~ 160 種が存在する。(さらに 細分すると → +40 種)

能面には、7つのふしぎ あり (=能面の奥義 に通ずるポイント)。  
 まず、これをお話します。

- ・ 「翁」… 翁の舞(演能の原点) = 聖徳太子の時代に遡る  
 ⇒ 春日大社 「回向の松」の前で、「御祭り」にて 奏上 する  
 ⇒ 能楽堂の松(鏡板に描かれる)は、これに拠っている  
 (高砂神社-能楽堂だけは、「相生の松」描かれている…(幹ぶりが違う))  
 → (3種類ある)この面だけが、「面のアゴ」が動く様になっている (他に もう一つ「延命冠者」も動く)  
 ヲウカ サルガク カガラ サルガク
- ・ 能への推移： 散楽→猿楽 や 神楽→(偏がなくなり)申楽 ⇒ 世阿弥の「能(楽)」 に至る変遷  
 (古式の 能楽 = 翁 面 (翁 舞)) が 能楽の ルーツ

以下に、代表的な面(オモ)をあげて、その特性(特徴・見方・考え方等)を解説する。

- ・ 能 の「五番」=演し物の公式シーケンス= 終日公演(朝から1日かけて「1番」~「5番」)する。  
 さらに ↑これ を数日 間 繰返す(尾張 徳川家の記録に記されている)

ジョウメン

- ① 『尉面』 … 「五番」演目の 冒頭 ⇒ 能面として、一番 人間の顔に近い  
 ⇒ 「小(牛)尉」 が 代表的

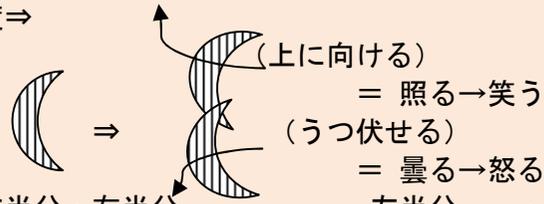
オモ ヲモ ヱキノオモ ツキノオモ ハノオモ ← 現存するのはこれだけ

- ② 『面』 と面 …… 『雪の小面』・『月の小面』・『花の小面』 この3品を、樋口様が制作(面打ち)している  
 「ム」と言わず「オモ」 および 「コ オモ」と言う

能面の種類		資料 1		
分類	系列	名称	(記述した合計は169種類)	
藝 面	舞系	舞 (白式舞、白色舞)	源色舞 (黒式舞、三番舞)	
		父舞 (ちちのじょう)	延命冠者 (えんめいかんじや)	
尉 面	神体の化身	小(牛)尉 (小尉)	牛尉 稲尉	
		老神系	石王尉 鬣尉 舞尉 舞小尉 舞尉 冠尉	
		老人系	朝倉尉 三光尉 笑尉 阿古父 (阿耆) 尉 木賊尉 (とくさじょう)	
		桜尉 阿古父尉 右衛門尉 住吉尉 妙作尉		
鬼 神 面	飛出系	大飛出 小飛出 釣眼 黒鬚 (髭) 泥黒鬚 牙飛出		
		花牙小飛出 猿飛出 舞神尉		
	總見系	大總見 中總見 小總見 牙總見 長鬚總見 般若 猿總見		
	悪尉系	大悪尉 小悪尉 鼻輪悪尉 鬣輪悪尉 若翁悪尉		
		重荷悪尉 石榎悪尉 三光悪尉 生持悪尉 冠形悪尉		
	瘧見悪尉 牙瘧見悪尉 嬰石悪尉 正尊悪尉			
天神系	天神 小天神 大天神 (だいてんじん)	憤天神 白天神		
鬼畜系	舞 (しかり)	大舞 野干 泥野干	獅子口 (大獅子)	
	小獅子 若獅子 夜叉 蜘蛛舞 泥虎 雷 雷電			
男 面	若い男系	一六 喝食 大喝食 童子 大童子 慈童 舌出慈童		
		狸々 今若 敬盛 蟬丸 弱法師 (よるぼし) 十六中侍		
	若男			
中年の男系	平太 中侍 御那男 俊寛 住吉男 源三 樂平			
入道 源三位 白藏主				
老年の男系	鬚端			
女 面	若い女系	小面 小姫 若女 孫次郎 万福 瑞葉女 (みずはめ)		
		舞羽 節木増 増女 逆髪		
	中年の女系	近江女 泣増 宝来 鴻井 深井		
曲見 若曲見 龍女 (りゅうにょ) 十寸 (増) 髪 (神) (髪すかぬ)				
老年の女系	姥 若女 小町 老女小町 松垣女			
靈 面	怪士系	怪士 筋怪士 靈怪士 千種怪士 木汁怪士 真怪士		
		頼政 筋男 鷹 阿波男 神体 三日月 真角 一角仙人		
	東江 (とうこう) 男十寸髪 錦木男 (にしきぎおとこ) 靈神 (れいしん)			
	瘦男系	瘦男 二十余 蛙 (河津、川途) 早男 寝草男 少将		
	瘦女系	瘦女 鉄精女 (てつせいおんな)		
靈女系	靈女 (りょうのおんな) 泥眼 權姫 生成 (なまなり) 真蛇			
安達女 泥蛇 狐蛇 般蛇 平方般若 浮木般若				
般若 *般若の作は細川家が所有 赤般若 白般若 黒般若				
山姥系	山姥			
仏像系	釈迦 不動 牙不動 泥不動 蔵王 護法 太子			

資料 1 能面 169 種類…本資料の末尾に再録しています

(a) 能面の角度⇒



それぞれの表情 → 表情が現れる様に面を作る (打つ)

(b) 能面の 左半分 : 右半分  
「陰」・「陽」がある。

(もともと、能面は左右対称に作らない、作れない)

「陰」側 「陽」側



(c) 「面」は、(真正面から見ない⇒手に持って「面」を見るときは) わずかに下(客席から舞台を見るがごとく)から見上げる様な、上向き角度をつける。

(d) 演ずる所作 ⇒ 「面」を「掛ける」・「いただく」⇒ 能を演ずる所作シテ(主演者)は、まず鏡の間(「揚げ幕」の奥)で「面」を掛ける次に、少し下向き(「くもらせる」)傾けて揚げ幕をくぐり橋掛りから舞台に出て行く(陰・憂で舞台に上る)。能舞台で演じてのち、舞台から橋掛りを通して下る時は、「面をあげて(陽・笑で)退く」 「面(&能)」を見るには、こうした変化を、細かく見分けることが、能楽「鑑賞」のポイントになる。 能舞台の図解 → P9/9 参照

(e) 能面の年齢変化…女性の「面」で、その有りようを事例として  
-----老けていく-----

「(3つの)小面」(若い女性)

中年「深井」

「老女」

この変化を、能面 Photo にて説明

⇒小野小町の100歳姿を映す

③ 「平太」と「景清」… 男性の面について → 資料2 参照(対照的な2種類)

(a) 「平太」→源氏の武者 とりわけ 義経(の霊)を演じる 勇ましく精悍

(b) 「景清」→平家の大將で、壇ノ浦を生き延びて更に義経の首を狙い続ける、執拗な老人の姿である。

壇ノ浦から奈良に戻り、大仏供養で義経暗殺を試みるも、東大寺転害門で捕縛され両目をくりぬかれて、日向に流された武將である。「盲目」を顕す「面」である。

この「面」は、「盲目」に作られるが、下向き斜めのスリットが切られており(このスリットから)演者は床面がよく見える。(観客からは「盲目」に観える)

「盲目」の面は、「景清」の他に2種 = 「蟬丸」・「弱法師」がある

第6回 茶乃逢 能面ミニ展示会 メニュー

資料 2  
2015.10.14 橘口玄正



平太 (へいた)

平太は源氏などの武者として使用される面。能「八島」では、後シテの源義経の霊として登場する。赤ら顔で、勇ましい鬚を蓄え、少し粗野で、いかにも坂東武者の風貌を呈している。平家の公達に用いられる中將の面とは対照的である。



霊怪士 (りょうのあやかし)

平知盛は壇ノ浦の戦いで義経に挑むが、叶わず舟の破を担いで水中に没する。その怨霊が、兄頼朝に追われて大物ヶ浦から大分大野(岡城)へ逃れようとした義経一行の船に嵐となって襲いかかる。怪士は平氏の亡霊。中でもこの霊怪士は能「船弁慶」の専用面。眼には金冠、歯は金泥、尋常でない形相をしている。



景清 (かげきよ)

悪七兵衛景清は平家の有能な侍大將。能「開眼供養」(奈良詣)や「景清」でシテとなる。景清は壇ノ浦で平家が滅亡した後も生き延び、開眼供養に訪れた頼朝の暗殺企てるが叶わず、眼球をくり抜き、盲目となって日向国に流される。能「景清」は父を弑して日向の国へ訪ねてきた娘丸との邂逅。そして惜別。この面景清は、金剛型で、楯えた鬚がなく、勇猛な戦いの音語り、娘との別れに心を痛める老人の姿に重きを置いている。

資料2. 平太…景清 = 男面

目(眼球)のカタチから

■ ⇒ 笑みを発する

● ⇒ 怒りを発する

- ④ 「山姥」… 講師：樋口会長の 快心作 を持参・説明  
 ⇒ 「面」の制作時には、**新作**であっても、時代を経た面のように作られる（打つ）。（これを 実物で説明）
- ⑤ 「小猿」…これは 狂言 で使われる面である。  
 狂言の格言として  
 「サル に 始まり キツネ に終わる 」 と 称される  
 （猿回し） （釣狐）



Part 2 : 能面に関するあれこれ・エピソード等

・クイズ編… 「面」に近い ヒト は誰か？

（面 の基本は、ヒト の顔(そのもの と その観察)にあり）

- Q1 : 狂言用「小猿」面のソックリさん？      Ans. : 「織田信成」さん
- Q2 : プロ野球選手で、「能面」に近い顔立ちさん？      Ans. : 阪神タイガース「能見投手」(スコのだじゃれ?)
- Q3 : 「翁面」ソックリさん、鼻がポイントです      Ans. : 共産党「志位委員長」…大きくガッシリしている
- Q4 : 「…小面」を思わせる女性アスリート？      Ans. : 「浅田真央」さん、全体印象がきわめて近い
- Q5 : 「般若」面そっくりさん、男性の格闘競技から      Ans. : 柔道家「篠原信一選手」

資料3 持参・展示の能面 …10種類

- ・在ニューヨーク-日本総領事館で開催(H26/7)した能面展示  
 日本文化の紹介事業として 各種の制作能面を紹介・展示した  
 …草賀大使（在 NY 日本総領事）、三ツ矢外務副大臣の協力・協賛を得て実施
- ・京都市美術館別館にて、第 44 回の新作能面展示会を開催(本年 10/28~11/1)。  
 …こうした展示会で、各種の能面を展示・解説

2014. 7. 8 三ツ矢外務副大臣と



- ・能楽 諸流派での それぞれ使用する「面」が異なる …「女面」をサンプルとして解説
- ・能面に象徴される特徴を、実在するポートレート Photo を通じて解説

NY の展示会について解説中の会場

⇒ 事例 photo=(ノーベル物理学賞)天野教授 (タテえくぼ)、能見選手(顔立ち)・志位委員長 (鼻)・浅田真央さんの目鼻立ち (小面風) 等

天野浩教授(タテえくぼ)



阪神タイガース  
能見投手

最も能面に近い顔をしている。

球界の玉三郎



鼻

志位和夫さん  
鼻が、特に小鼻が素晴らしい。  
翁や獅子口の鼻に似ている。



浅田真央ちゃん 小面風な顔立ち



Part3 : 秀吉は、どれくらい能楽・能面に愛着持っていたか？

・秀吉の生涯と能の関わり (…1537 年生まれ=信長より3歳若い)

18歳：信長に仕える

37歳：(近江)長浜城主(この頃から能に親しむ)

46歳：本能寺の変…天下人への道が始まり、能楽の庇護者へ

47歳：北ノ庄で柴田勝家・お市を討ち取り、茶々・お初・お江 三姉妹を引き取る  
⇒ それぞれを 雪・月・花 の小面になぞらえる(能への造詣あらわれ)

48歳：小牧・長久手の戦い 家康と和解→後生の徳川家が能庇護者へ  
⇒ 家康・西郷の局 の子 = 秀忠(武将の終焉=知者・聡明)を後継者に置く

49歳：関白に 検地・刀狩り等を指示 →後に、能を庇護・保護→流派隆盛に貢献

51歳：北野大茶会 → 民衆を引きつけ、人気を獲る 才能に優れる(その一つとして「能楽」を利用)

54歳：北條攻め・伊達政宗を籠絡

55歳：嗣子鶴丸・秀長の死 → 朝鮮出兵 = 筑前名護屋築城 ⇒ その城内で3日間の能楽三昧(朝鮮出兵の真最中に)  
(関白を秀次に譲位して)太閤になり、「わがまま」極まる行動に走る。

その一つに、能楽三昧(金春流に師事して、50日間で15曲を習得)  
→ 座付制度(4座1流)※ ある意味で狂気行動とも言える  
指月山伏見城を築城

59歳：秀次事件 (関白に謀反疑い有りとして、秀吉から切腹命令・眷属皆殺し・財産抹殺)

60歳：文禄の大地震・指月山伏見城が崩壊、  
木幡山に伏見城築城、醍醐の花見・8月逝去

・秀吉と能楽の関わり…さらに細部は解説スライド参照⇒  
「座付制度※」を定める。

大和猿楽の4座⇒「4座1流」を制度化して (基礎の確立)  
知行・配当米・扶持を支給(中でも金春・金剛2流を最頂)  
⇒ 豊臣 → 大名家のたしなみ・日常化へ  
さらに「徳川将軍家」が江戸期に支援を引き継ぐ

・秀吉は、能楽宗家から☆を借上げ、面打師一角の坊に模作を命じた。彼は「3面を5日で完成」。喜んだ秀吉から「天下一若狭」号を授かる。

・「雪・月・花」=小面3銘品について (講演の席上では、「写しの3品」←樋口玄正作を掲げて説明された)

- ① 雪の小面…金春笈蓮に下賜(その後行方不明) ⇒昭和になって発見・金剛宗家(先代25世…P8/9)が「雪」を舞う
- ② 月の小面…徳川家康へ譲る 後に 焼失(現存しない) (↑1億円の能面? 新聞報道による)
- ③ 花の小面…旧金剛家(流)へ下賜 その後「三井家」が買取って保存 →(現在)三井記念館にて展示中  
⇒☆こうした銘品能面:「雪・月・花」などは、世阿弥が「風姿花伝」で「女面の名手」と賞した「石川龍右衛門」の創作である。

…資料4 秀吉の略年表 …P7/9に表示

### 秀吉と能楽との関わり

<p>大和猿楽 外山座(宝生)…上懸り 結崎座(親世)…上懸 坂戸座(金剛)…下懸 円満井座(金春)…下懸</p> <p>を中心とした座付制度を定める。※ 猿楽の座に、知行、配当米、扶持を与える。 *秀吉は金春と金剛を最頂にしていた。</p>	<p>※ 座付制度 4座1流(江戸時代) ・テ方 後見 地謡 子方 ・ワキ ・笛・小鼓・大鼓・太鼓 ・狂言(大藏流、鷺流) *和泉流は明治以降 摂津猿楽、近江猿楽、丹波猿楽 は、大和猿楽の傘下に入る。</p>
---	--

↓ ※

江戸時代には、座付制度が踏襲され、更に猿楽の能が式楽となる。  
\*各大家では、公式行事に能楽を演じることになる  
また幕府に大夫職が設けられる

「座付制度※」など、秀吉の関わり解説スライド

・ 秀吉と伏見城

…その生涯最後の居城として「伏見城」を築城（1594年に指月山に築城。地震倒壊があつて、北東2キロの木幡山へ1596年に移築した）

## 伏見城(1596年築城 秀吉60才)



醍醐三宝院  
約4km

1598年春 醍醐の花見

同年8月18日死没

辞世  
「露と落ち露と消えし  
我が身かな  
浪速のことも  
夢のまた夢」



「小面 3品：雪の…、月の…、花の…」

・ 伏見城跡…秀吉栄華の遺構（JR 奈良線 桃山駅 から「大手筋」 経て 近くに「(焼失した)本丸跡」がある。 醍醐寺三宝院からは4 km と近い）

1598年春 秀吉は伏見城から「醍醐の花見」を主催し、その後（8/18）秀吉- 没。

辞世 詠み 『露と落ち 露と消えにし 我が身かな 浪速のことも 夢のまた夢』

のち伏見城そのものは、「伏見城の闘い(1600年)」＝関ヶ原の前哨戦で焼失した。

こうした伝統が、その後の今日まで 能楽・能面に伝わる。 例えば、新発見-「雪の小面」による「雪」の舞い(←(現)金剛流 25世宗家)など。

## 秀吉の略年表

1537年	尾張中村に生まれる。(3月17日)
18才	織田信長に仕える 孫と呼ばれながら、組頭、足輕大将と出世
37才	小谷城の戦い・浅井長政攻める(お市の方救出)・・・長浜城主
46才	本能寺の変(信長の死)・・・山崎の戦いで明智光秀が敗走
47才	賤ヶ岳・北ノ庄の戦い柴田勝家に勝利 茶々、お初、お江を保護
48才	小牧・長久手の戦い・徳川家康と和解・家康の三男を預かる *家康と西郷の局との間にできた子で徳川幕府 二弟將軍秀忠
49才	大阪城を築城・関白となる・検地を始める(海賊禁止令・刀狩)
51才	九州、島津家を服従させる・京都の聚樂第で政務(北野大茶会)
54才	小田原城攻め、北条氏を滅ぼす・伊達正宗を臣下に・天下統一
55才	嫡男鶴丸が病死、弟の秀長が病死・・・千利休を切腹させる 肥前国に名護屋城を築城・朝鮮出兵(文禄・慶長の役) 甥の秀次に関白を譲り、太閤となる・伏見城(指月山)を築城 ★
59才	秀次事件(57才の時生れた次男おひろい・秀頼の跡継ぎを案じて)
60才	文禄の大地震・伏見城崩壊・本幡山に新たに伏見城を築城

## 雪

能英樹氏の絵画

金剛流25世宗家

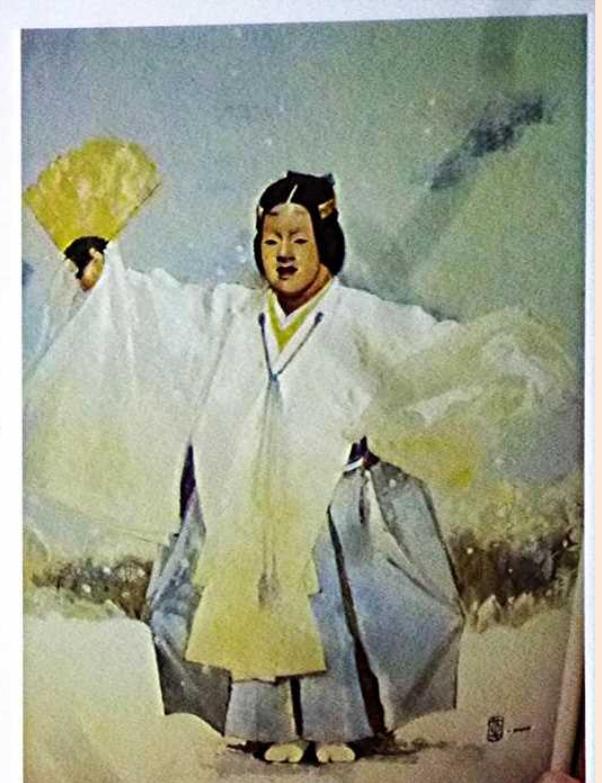
面は「雪の小面」

旅の僧の前に、清らかな  
雪の精が現れ、しずしず  
と舞を舞う小品

小書「雪踏」

■1億円の能面と

新聞記事



## Part4 : Q &amp; A (講演内容への質問・回答)

- ・ Q-1 : いまの伏見城を観ることができますか？ Ans. : 上記に記載
- ・ Q-2 : 「…小面3面」はどう(何かをモデルとして)作られましたか？  
Ans. : この小面は、浅井三姉妹(茶々・お初・お江)を各々イメージして制作。持参した「花の小面」は「茶々」モデルのもの。  
能面造りは「創作」です。「鼻」から「眼」まで(の長さ)が、1寸3分が基本ですが  
この制作面は、「1寸」延ばしている。これで、制作3面それぞれに、その特徴・より強い意思を噴き出させる表現力が備わっている。
- ・ Q-3 : (秀吉時代からの伝承品として)小面3点をどう受け止め(評価)たらよいか？  
Ans. : 現存「花…」は、「秀吉」からの伝承である(履歴が明確)。「月…」は江戸城と共に消失・記録なし(江戸初期の現品調査記録だけ)。  
「雪…」も行方不明となり、徳川幕府の記録(「書上げ」)にも見当たる事項なし。であったが、昭和になってから現存「雪…」が発見された。  
ただし、こうした「伝承の小面」から、江戸時代に「ウツシ」面が多数打たれ(作られ)ている。この、「伝承」については諸説(さまざまの証言)がある。そして、(能楽の)各家元から、公式に(能面の)展示・解説機会がときどき催されている。
- ・ Q-4 : 「(伝承の)本物」を観て、どう感じますか？ Ans : 3人の各々本作品を見ると、格別のことを感じます。
- ・ Q-5 : 「面打ち」はどんな材料を使うか？  
Ans : 基本的には「木曾檜」を使う。今は良いモノが入り難い。伐採後、木材に乾燥防止の措置をして、さらに半年以上寝かせてから使用する。

・ Q-6 : 能面には品位があると聞いている。また、狂言面の品位はどう扱われているか。

Ans : 「能面」には、品位がそれぞれに定められている。「狂言面」の品位は聞いていない。

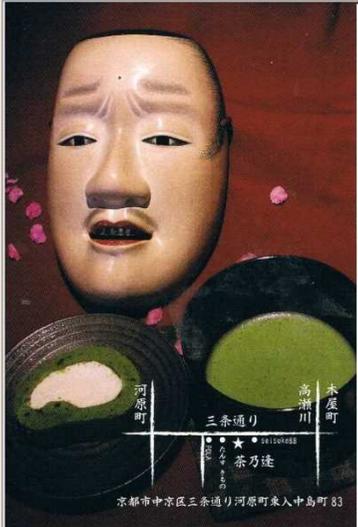
そのなかで「品位」別格は「翁」面である。次ぐのは 若い女性の面で、「小面」がその代表にあたる（秀吉時代からの伝承）。さらに「若女」「孫次郎」「節木増(フシヅウ)」の女性面が品位高い。続いて、神の化身や、木の精霊になる「尉面」(品のあるお爺さんの面)などが、(品位として)続いている。

能楽各流儀での女面各種

流儀の女面

- **小面** 純情・可憐・あどけない恋慕の表情  
…金春流、喜多流
  - **若女** 知性的な美人(小面よりやや年上)  
…親世流(本面は河内作)
  - **節木増** 玲瓏(レイロウ)とした品格を有する美人  
…宝生流(本面は増阿弥作)
  - **孫次郎** 艶麗な(なまめかく美しい)女性  
…金剛流(本面は孫次郎作)
- \*「景清」も流儀によって異なる。

⇒ 講演から能面に興味を持たれたら、  
さらに以下記載の「能面教室」見学や、「喫茶店(能面展示あり)」へどうぞ  
・ 能面教室を見学・参加 →  
↓ ・ 能面 in 喫茶店(「茶乃逢」…京都-三条河原町東入)



POST CARD

□□□□□□□□

---

能面 in 喫茶のご案内

● 毎月 第2水曜日 午後4時～7時 H27.予定

● 「茶乃逢 SANOAH」 11/11

2階席で能面を展示しています

● お茶を飲みながら能面を鑑賞して戴けます 12/9

主催 樋口 玄正  
日本能面美術協会 会長  
能面教室「玄正会」  
京都市伏見区桃山町大津町 22-2  
TEL 075-621-1798

能面教室見学申込書

氏名 \_\_\_\_\_

〒□□□-□□□□ \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

連絡先 (固定電話又は携帯) \_\_\_\_\_

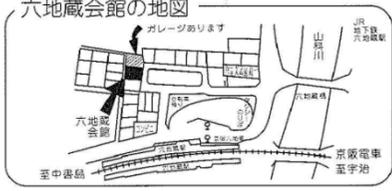
TEL \_\_\_\_\_

(その他、ご希望があれば、ご記入下さい)

能面教室のご案内

- 月2回 第2・4 土曜日の午前9時～12時
- 教室 六地藏会館(下記の地図参照)  
・ 京阪六地藏駅から徒歩1分  
・ JR・地下鉄の六地藏駅から徒歩3分
- 月謝 6千円(ご夫婦の場合は、二人で6千円)
- 講師 樋口 玄正(ゲンショウ)日本能面美術協会
- 申込 左のハガキに所定の事項をご記入の上、  
切手を貼ってお出し下さい。
- 見学・説明 (無料)  
初回は教室の見学と能面製作の説明をします。  
必要な道具や、諸費用についても説明します。

六地藏会館の地図



POST CARD

□□□□ □□□□□□

6128014

京都市伏見区桃山町  
大津町 22-2  
日本能面美術協会  
樋口 玄正 行

50才からのチャレンジ  
どなたでもつくれます!

\*\*\*目が覚えて、手が動けば、90才まで楽しめます\*\*\*



能面教室のSさん (小面 製作中)

- \* 作っている時は無心になれます。
- \* 第2の人生が始まった、という感じです。
- \* 仲間が増えると、うれしいな!

近鉄 MOMO の十字屋カルチャーでも土曜日午後12時に講師をしています

資料 1 能面の種類...169種類

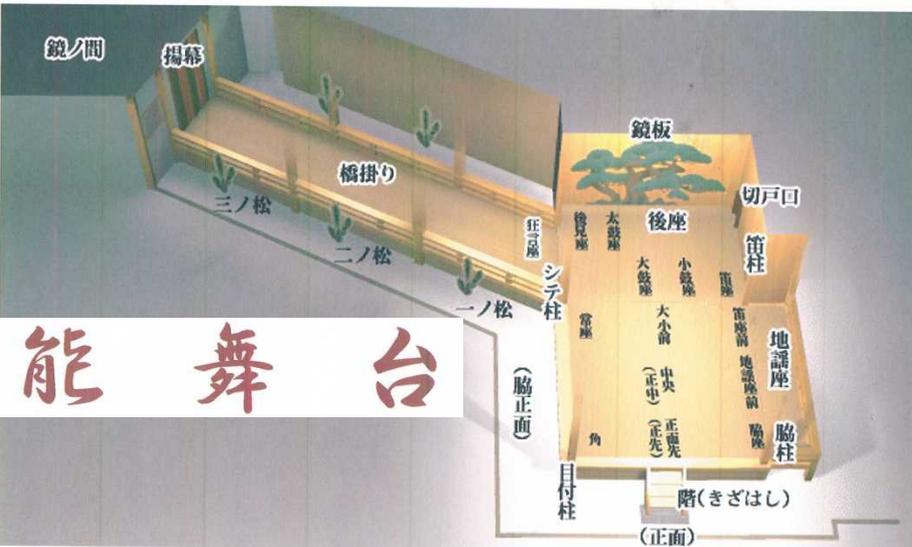
能面の種類

資料 1

分類	系列	名称 (記述した合計は169種類)
翁面	翁系	翁 (白式尉、白色尉) 黒色尉 (黒式尉、三番叟) 父尉 (ちちのじょう) 延命冠者 (えんめいかじや)
尉面	神体の化身	小牛尉 (小尉) 鬘小尉 稻尉
	老神系	石王尉 皷尉 舞尉 舞小尉 靈尉 冠尉
	老人系	朝倉尉 三光尉 笑尉 阿古父 (阿瘤) 尉 木賊尉 (とくさじょう) 桜尉 鬘阿古父尉 右衛門尉 住吉尉 妙作尉
鬼神面	飛出系	大飛出 小飛出 釣眼 黒鬘 (髭) 泥黒鬘 牙飛出 泥牙小飛出 猿飛出 顰悪尉
	癒見系	大癒見 中癒見 小癒見 牙癒見 長靈癒見 熊坂 猿癒見
	悪尉系	大悪尉 小悪尉 鼻瘤悪尉 鷲鼻悪尉 茗荷悪尉 重荷悪尉 石榴悪尉 三光悪尉 生荷悪尉 冠形悪尉 癒見悪尉 牙癒見悪尉 要石悪尉 正尊悪尉
	天神系	天神 小天神 大天神 (だいてんじん) 憤天神 白天神
	鬼畜系	顰 (しかみ) 大顰 野干 泥野干 獅子口 (大獅子) 小獅子 若獅子 夜叉 蜘蛛顰 泥虎 雷 雷電

男面	若い男系	一六 喝食 大喝食 童子 大童子 慈童 舌出慈童 狸々 今若 敦盛 蟬丸 弱法師 (よろぼし) 十六中將 若男
	中年の男系	平太 中將 邯鄲男 俊寛 住吉男 源氏 業平 入道 源三位 白藏主
	老年の男系	景清
女面	若い女系	小面 小姫 若女 孫次郎 万姫 瑞葉女 (みずはめ) 蟬羽 節木増 増女 逆髪 若女 若女印
	中年の女系	近江女 泣増 宝来 浅井 深井 曲見 若曲見 龍女 (りゅうによ) 十寸 (増) 髪 (神) (ますかみ)
	老年の女系	姥 老女 小町 老女小町 捨垣女
霊面	怪士系	怪士 筋怪士 霊怪士 千種怪士 木汁怪士 真怪士 頼政 筋男 鷹 阿波男 神体 三日月 真角 一角仙人 東江 (とうこう) 男十寸髪 錦木男 (にしきぎおとこ) 霊神 (れいしん)
	瘦男系	瘦男 二十余 蛙 (河津、川途) 早男 深草男 少將
	瘦女系	瘦女 鉄輪女 (かなわおんな)
	霊女系	霊女 (りょうのおんな) 泥眼 橋姫 生成 (なまなり) 蛇 真蛇 安達女 泥蛇 狐蛇 般蛇 平方般若 浮木般若 般若 *般若坊作は細川家が所有 赤般若 白般若 黒般若
	山姥系	山姥
仏像系	釈迦 不動 牙不動 泥不動 蔵王 護法 太子	

\*直面 (ひためん) とは、面 (おもて) を掛けない素顔で演じること。表情を着けないことが原則。  
\*赤字は講演に持参します「玄正作品」 ※その他に、狂言面「小猿」も見ていただけます。



能舞台

能舞台の図解 (名称)

おわり